

輝き続ける九谷焼の伝統

美しい文化 in 小松

11月11日に那谷寺の金堂華王殿でニッポンたからものプロジェクトが開きいされた。小松市は2300年前から宝石・鉱石・石材・陶石などが採掘され石と共に生きてきた町だ。そのため小松市では石の文化に関わる九谷焼のことや落語や民謡や日本ぶようなどが公演された。



その中でも九谷焼は約三六〇年という長い歴史をほこっている。九谷焼の始まりは一六五五年ごろに色絵磁器が焼かれたことが始まりだ。そんな長い歴史がある九谷焼を支えているのが小松市の花坂町で採くつされるとう石だ。ニッポンたからものプロジェクトでは美しい九谷焼の作品も見られた。外国に持つていった作品やカブトムシの作品をみるとお客さんの目を惹きつける。九谷焼の始まりは、一六五五年ごろに色絵磁器が焼かれたことが始まりだ。そんな長い歴史がある九谷焼を支えているのが小松市の花坂町で採くつされるとう石だ。ニッポンたからものプロジェクトでは美しい九谷焼の作品も見られた。外国に持つていった作品やカブトムシの作品をみるとお客さんの目を惹きつける。

2018年 12月 3日
発行 那谷小学校 6年生

九谷焼の始まりは、一六五五年ごろに色絵磁器が焼かれたことが始まりだ。そんな長い歴史がある九谷焼を支えているのが小松市の花坂町で採くつされるとう石だ。ニッポンたからものプロジェクトでは美しい九谷焼の作品も見られた。外国に持つていった作品やカブトムシの作品をみるとお客さんの目を惹きつける。九谷焼の始まりは、一六五五年ごろに色絵磁器が焼かれたことが始まりだ。そんな長い歴史がある九谷焼を支えているのが小松市の花坂町で採くつされるとう石だ。ニッポンたからものプロジェクトでは美しい九谷焼の作品も見られた。外国に持つていった作品やカブトムシの作品をみるとお客さんの目を惹きつける。



伝わる

日本舞踊・長唄・春夏秋冬・くく・勤道張より、滝流しの合方を踊る花柳源九郎さんの舞は扇子2枚を巧みに使いしらすさがははたいたり、休んだりは

那谷寺の見所

那谷寺は七二七年に建てられ、七年一三〇〇年を迎えた、歴史のある日本にはほころぶお寺だ。昔、松尾芭蕉が訪れ、石山の石より白し秋の風」というとてもすてきな俳句をよんでくださった。うでもその句碑は那谷寺に残っている。



芭蕉の句碑

那谷寺の春は、ミダレガクラが咲き、夏には緑の葉が生い茂るとても美しい。秋には赤い実と石山の白のコントラストが抜群だ。冬には、雪の降りた上に雪が降り、幻想的だ。



那谷寺本殿に向かう

那谷寺は普段一日數十人が訪れるが、秋のモミじり見頃には一日約六〇〇〇人が全国各地から訪れる。春夏秋冬遠く、たまたま見られるのでぜひ訪れてみてほしい。

伝統

観客は、心を奪われたいように、感動して、たの様子だ。た、花柳源九郎さんは「日本舞踊は江戸時代のふりつけをそのままやっても現代には通じないので、自分自身のいきさつも踊りに表現してきます。と語っていた。

今回のカラフルライブで公演してください。分運がうけついたら伝統芸能を知ってほしい。で次の世代につなげていきたいと話されています。私たちが、この町の宝である那谷寺をたたく、良さを知らせる活動をしたいです。ぜひ那谷寺へ来てみてください。

編集後記